

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992000012		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 慎太郎		
所在地	〒781-7412 高知県安芸郡東洋町大字河内字王子田353-1		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、地域密着型の事業所としての特徴を活かし、少人数で生活することで家庭的な雰囲気と安らぎを提供し、認知症予防の取り組みとして家事活動の援助(調理、清掃、洗濯、菜園など)やレクリエーション援助(学習療法、音楽療法、運動療法、個別・グループレクなど)、地域行事への参加(ボランティア活動、お祭り、運動会ほか)などの余暇時間の充実に努めている。また、ハード面では、システムキッチン(オール電化)、個別の浴槽やトイレ、洗面台の自動センサー、室内冷暖房完備、コールピッチ対応などの充実を図るとともに、専門スタッフによるケアの提供と、個別ケアを取り入れ、自己選択や自己決定ができる環境を提供し可能な限りの自立支援を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3992000012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな環境の中で、利用者は表情も良く、ゆったりと穏やかに落ち着いた生活を送っている。基本理念に沿って、個別ケアに重点的に取り組み、職員の特技等もケアに活かすとともに、管理者を中心としたチームワークを図りながら支援に努めている。また、地域の清掃活動や祭等にも参加したり、併設のデイサービスセンターの利用者や近隣の幼稚園児との交流のほか、日頃から婦人会など地域住民との交流や協力も得られている。敷地内の畑では野菜を栽培しており、季節を感じさせる旬の食材が食卓を賑わしたり、家事活動などにおいても、日々の生活の中で利用者の現在の能力を活かしてもらいながら、認知症の進行予防にも取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名 慎太郎 1・2

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際、法人の年訓、グループ訓と理念を同様に唱和することで、管理者、職員共に理念を振り返りながら業務の遂行に努めている。また、入居者、家族にも理念等について説明し理解を求めている。	事業所独自の理念があり、朝礼や職員会で唱和したり、ケアプラン作成の際に理念とされている個別ケアを踏まえ、個々のサービスに活かされるよう検討しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や地域の催し物に可能な限り参加し、祭りの御構金、御神酒奉納や花火大会の寄付などもしている。毎年秋には近隣の民家から招待を受けて菊の観賞に出かけたり、事業所行事への参加案内や、ボランティアの協力依頼などもしている。	町内会には加入していないが、地域の祭り等への寄付や、催し物に積極的に参加している。また、近所の人々が気軽に立ち寄ってくれたり、花をもらうなど、地域との交流もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習や介護職等の実習、大学生の見学などを受け入れたり、地域や婦人会などのボランティア活動に入居者と職員が共に参加することで、認知症への理解や援助法を共有できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事や取り組み、情報公表や外部評価の結果等を議題として意見交換をしている。また、事故報告を通じて、対策や安全面での見直しなど、個別ケアの質向上にもつながっている。	事業所から運営状況等について報告し、参加委員から意見や提案等を得て双方向的な会議となっている。その時々によって、事故報告や感染症予防対策、評価報告やその対応についても話し合いが行われ、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の実情について報告し助言をもらうとともに、入居者、家族に関する相談などもしている。また、居宅支援事業所の職員とも連携し、在宅介護の認知症ケアについての問い合わせなどにも応じている。	役場主催の研修会に参加したり、介護保険認定更新手続きも行っており、その機会に担当者に利用者の様子等を伝えたり、助言をもらうなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全対策の面との関連はあるが、玄関へのセンサー設置と職員の連携を周知徹底し、施錠しない援助に努めている。身体拘束については指針、マニュアルに基づき全職員が理解しケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会等で職員の理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。利用者の外出傾向を把握し、外出等の気配を感じたら一緒に散歩したり、気分転換を図るよう支援をしている。玄関等に施錠しないことによるリスクについても家族に説明し、理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や日々のケアの中で、入居者の自尊心や羞恥心、尊厳の保持に配慮した援助や声かけをしている。サービス提供に当たっては、全職員が話し合い認識しながら虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者の中に制度を活用している事例はないが、過去に活用事例があり、職員は制度について理解している。今後、必要に応じて活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には関心の深い利用料や物品購入のほか、サービス利用に当たっての不安要因や質問事項、ケアの内容などについて十分な説明を行い、理解と納得を得るよう努めている。また、入居後もその都度、説明責任を果たし、理解、納得を得るよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット玄関に「意見箱」を設置し、苦情申出窓口を設けている。運営推進会議の際に家族代表委員から意見などを聞いたり、可能な限り入居者、家族・職員との話し合いの場を持っている。家族との報告、連絡、相談を全職員に徹底し、取り組んでいる。	日々の暮らしの中で利用者の気持ちを汲み取るようにしている。家族の面会等の機会に意見等を聞いたり、家族との食事懇談会を催し、ざっくばらんに意見交換したり、家族のみでも話し合えるよう配慮している。出された意見については検討し、職員間で共有し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や月1回の職員会議、年2回の職員面談や給与支給などに合わせて、問題提議や意見など聞く機会を設けている。内容に応じて全職員で検討するなど運営につなげている。また、職員個々の月間目標に意見や相談事項を書き添える場合もあり、意思疎通を図っている。	朝礼や職員会で出されたケアへの提案や意見について検討し、運営に反映させている。また、利用者の受け入れについて職員も関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力に応じた職務分掌を作成し、勤務形態も希望に沿うようにしている。管理者は勤務状況について十分把握できており、向上心を持って働けるよう、正規職員、パート職員に関わらず何事も話し合い、支え合う職場環境づくりを目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加するようにし、外部研修については必ず伝達研修を実施して全職員との共有を図っている。また、日々の業務やケアを通じて、職員個々の能力に応じた助言や実地指導なども行っている。今年度は、認知症介護実践リーダー研修に参加することで多くの学びがあり、職員の意識、ケアの向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市町村、法人の研修に参加し、他事業所の職員と交流を持ち、業務やケアの実践のほか、情報を収集してサービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の可能な限り事業所を見学してもらい、面談を通して困っていることや意向など確認するとともに、自宅訪問により家庭環境を把握し、事業所での生活に活かすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談し、要望等を聞くとともに入居希望者の在宅での生活状況等を把握しながら、家族介護の軽減や、より良い支援の方法など一緒に考え、理解と納得を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の状況や要望等を十分に把握し、事業所でのサービスや、医療(健康)面の不安を緩和する対応なども含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできることを把握し、好きなことやできることに継続して取り組めるように援助したり、家事活動や菜園づくりなどの役割を持って、入居者と職員が共に支え合って生活が送れる環境を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族に入居者の状態について細かく報告し、家族の協力を得ながら入居者援助を共に支え合っていく関係を築いている。また、家族が県外在住の場合は、意向等を確認しながら緊急時の対応策を決めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店や美容室、医療機関の利用の継続など、これまでの関係が途切れないよう支援している。また、知人の面会や来訪の依頼、郵便物への援助も行っている。	馴染みの関係が継続できるよう関係先等の把握に努め、行きつけの商店や美容院に出かけたり、時には知人が尋ねて来てくれることもあり、継続してもらうよう依頼している。また、家族の協力も得て、思い出の場所等にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で互いに支え合う、良い関係があるが、時折トラブルが起きることもあり、関係が壊れないように職員が仲立ちしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された入居者には、併設のデイサービスセンターの利用や法人のデイセンターを紹介するなど、残存機能の維持や向上を図るよう勧めたり、近況についても家族と情報交換など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での行動や発言内容から気持ちを汲み取り、本人の希望や意向に沿うように援助している。困難な場合は、入居者、家族と職員が話し合い、本人にとって一番良い方法を選択しながらケアにつなげている。	毎日の利用者との関わりの中で、会話や仕草から個々の希望等を把握している。また、家族からの情報も得ながら利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活での情報を、本人や家族、担当ケアマネージャーから情報を得て、総合的に把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活を送る中で、入居者個々の生活リズム、残存機能、趣味や特技などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望も聞きながら、本人の残存機能や特徴、長所を活かし伸ばしたり、ストレスを感じない援助を検討しながら介護計画を作成している。医療面に関しては、主治医と相談しながら病状の緩和と安定に配慮した介護計画としている。	利用者・家族の思いや意向を聞き、職員の気づき等も踏まえてカンファレンスを行い、個別性を活かした介護計画を作成している。基本的には3カ月で見直しをしているが、状態に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別活動記録の特記内容や日誌の生活相談事項、ヒヤリハットや事故報告書からサービス内容を検討し、家族の意見も聞きながら対応策を決め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居希望や相談に応じながら入居前に併設のデイサービスセンターの利用を勧めたり、同法人の関連施設でショートステイを利用し、本人の様子を観察することでニーズに適した事業所の選択ができる取り組みをしている。また、退居後のサービス利用についても検討もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や婦人会、老人会の方々、保育園児、ボランティアの事業所訪問や消防署員を招いての防災訓練ほか、地域行事や運動会、催し物の見学などを実施し、豊かな暮らしとなるよう援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に受診について確認し、本人、家族の希望を尊重しているが、必要に応じて協力医院での診察も可能としている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医を決めている。通院介助は職員が対応しているが、専門医の受診や必要に応じて家族も同行している。受診結果は、家族に電話報告したり、受診記録簿で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の訪問看護を受けるなど、24時間の支援体制を整えている。月2回の往診や受診などで入居者の状態も把握しており、適切に医療や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、事業所での状態と服薬、既往歴など詳細に説明できるように緊急時の個別ファイルを準備している。入院中も主治医、看護師、家族から状況等を聞きながら退院後の受入準備をしたり、退院後の治療等の手続きもしている。また、病院主催の研修会にも参加するなど、より良い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、本人、家族の意向を聞いているが、現在のところ病院での対応を望んでいる。事業所では、看取りケアの指針やマニュアルを作成しており、希望に沿って協力医院と連携しながら支援していく準備をしている。	入居時に看取り支援について説明し、意向を確認しているが、全員が医療機関でのケアを希望している。利用者の状態変化により家族の意向に沿って医療機関と方針を共有しながらチームで支援していく体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修(座学・実践)で知識や技術の向上に努めるとともに、職員が自己学習できるように学習書やビデオも用意し、応急手当に必要な物品も準備している。また、防災訓練で消防署の指導で、AEDを使用した心肺蘇生法も学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、事業所の防災訓練を実施するとともに、年1回の地域の避難訓練にも参加し、避難経路の確認などしている。訓練時は、地域住民のボランティア参加もある。また、南米チリ地震の際、地域に津波避難勧告が出され、実際の避難体験もしている。	定期的に事業所独自の防災訓練を実施し、地域住民の参加、協力も得ている。また、地域の避難訓練にも参加するなど、防災対策に取り組んでいる。また、実際の津波避難を体験しており、避難の際の非常用食料や備品の持ち出しについて、反省としてあがっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の特徴や精神面に配慮し、排泄や入浴、衣類交換時のプライバシー保護や、ケアの場面での言葉かけなどについて注意合っている。また、個人情報の関係書類の取り扱いにも留意しながら取り組んでいる。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々のケアの中で、プライバシーを損なわないよう意識づけ、さりげない声かけや個人情報の保護などを職員に徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意向や要望を引き出せるような声かけに努め、自己選択や自己決定ができるように支援している。内容に関して支障があれば、本人へ繰り返し説明したり、家族と相談しながら可能な限り、本人の意思を尊重していく方向で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、大まかな1日の流れはあるものの、入居者のリズムやペースを大切に、本人の意向を優先しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の美容・理容室を利用している。買物の際は、入居者自身で、洋服や化粧品、ヘア用品などを選んでいく。身だしなみについては、全職員の認識度も高く、毎朝の整容は徹底して支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員と一緒に育てた家庭菜園の野菜を収穫し、食卓に載せたり、魚の塩焼きや干物、自家製のぬか漬なども提供している。入居者のできる範囲で、食材を育てることから調理して食卓に上がり、食後の片付けまでをそれぞれ役割分担をしている。	基本的に、併設のデイサービスセンターで調理し、利用者は職員と一緒に盛りつけている。土、日はユニットで調理し、利用者は準備から片づけなど、できることを職員と一緒にしている。利用者によっては職員と一緒に食材の買い出しにも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食毎にチェックし、間食についても可能な限り把握するように努めている。水分摂取量は、入居者個々の状態にもよるが1日1,800CCの水分確保に努め、体調や好みによって飲物の種類などに工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアの実施と唾液の分泌を促す口腔体操や口腔マッサージに取り組んでいる。また、義歯・残歯・舌苔のプラーク除去を行うとともに、感染症予防の一環として口腔ケアを重視し取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便感覚の無い方の対応として定期的に声かけしたり、一部介助しながら支援している。また、排泄サインを見逃さないようにして排泄の自立に努めており、紙パンツから布パンツに改善した例もある。夜間、トイレ誘導の困難な場合はポータブルトイレを使用するなど、個々に応じて支援している。	個々の排泄パターンを把握し定期的に声かけ誘導を行い、布パンツにパッドを着用するなど、個々に応じた支援をしている。また、夜間も定期的にトイレに誘導するとともに、状況に応じてポータブルトイレを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を調理し、水分補給に努め、軽度な運動や腹部マッサージなども心がけている。ビフィズス菌の入った飲料水やヨーグルトなどの提供も実施している。排便困難で体調不良の訴えがあった時には、医師の指示で整腸剤や緩下剤の服用も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ、毎日実施している。午前中の中の入浴希望はなく、午後の時間帯(13:30~16:30)での支援をしている。一般浴槽と個別浴槽の2種類で入居者個々の状態に応じた浴槽で入浴援助している。	利用者の希望に沿って、午後の時間帯に入浴している。拒否していた利用者について、夜間に入浴を支援することで、その後も継続して入浴している事例があるなど、個々に応じたきめ細かい支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止対策として、日中の生活を充実するため、役割分担とミニレクリエーションの充実を図っている。また、軽度の運動を勧め、歩行運動や散歩、菜園作りなどしている。就寝時間は入居者のペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は事業所で行い、個人が服用している内服薬、貼付薬、点眼薬を把握し、全職員が服薬の必要性を理解したうえで服薬援助に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前、午後のミニレクリエーションの実施と入居者個々の特技を活かした家事活動などの役割を担ってもらうようにしている。嗜好に応じた間食や食材を購入しては入居者同士で分け合ったり、装飾などの環境づくりや読書を楽しんでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や美容室、病院受診などが主流となっている。日々の生活の中で散歩の時間を設け外出したり、外出行事計画を可能な限り企画するとともに、家族の協力を依頼しながら支援している。	日常的に散歩に出かけたり、毎週定期的に食材等の買い出しに行っている。また、季節に応じてドライブも兼ね外食や花見、行楽など実施しており、家族の協力も得ながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方は1名のみで、ほか入居者は家族の判断で所持金はないか、小遣い程度を持っている。外出行事の際は、前もって家族へ連絡し当日迄に預かるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎをしたり、ハガキやレターセット、切手の購入や代筆、ポストインなどの援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内の清潔保持に努め、季節環境を整えることで、入居者に季節や行事を感じてもらおう取り組んでいる。物品の整理整頓で安全面にも考慮し、室内は明るくするとともに、温度、湿度管理にも配慮し、加湿器も常温の風にするなど、居心地よく過ごせるようにしている。	玄関や廊下の壁面には職員の特技を活かし利用者と共に作った干支の作品を飾っている。食堂兼居間には畳の間もあり、日当たりも良く、明るくゆったりと穏やかに過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室でテレビを観たり、ラジオカセットで音楽を聴ける環境もある。また、一部の空間には応接セットを設置し、将棋や読書などしながら、ゆっくり過ごせる居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、入居者の精神面に考慮し実際に使用していた物品を持参してもらうように依頼し、在宅生活との変化を感じない居室環境に努めている。認知症予防に必要な物品として、最低でもカレンダーと時計の準備を家族に依頼している。	部屋には、こたつ、テレビ等それぞれ使い慣れた家具や仏壇を置いたり、家族の写真を飾るなど、個別性のある工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症高齢者に安全なハード面(オール電化ほか)の設備と事業所内のバリアフリーに配慮するとともに、手摺りを多く設置している。表示方法も個々に応じて工夫し、見えやすくしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				